

カドミレス 黄銅棒

RoHS指令対応

(カドミ75PPM以下)

サイズ

丸棒 4.5~60mm

六角棒 5~40mm

常時豊富に在庫
その他のサイズも対応
可能、お任せ下さい!

株式会社三木商会

東大阪営業所

〒578-0921

大阪府東大阪市水走3丁目5-10

TEL 072-962-8000

FAX 072-962-8666

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836
購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円



橋本健一郎氏

輸出は二次合金が五六%減

輸入 スクラップ 三三・八%減

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏レポート②

とやECBドラギ総裁が国債購入拡大について否定したこと、イタリア国債の利回りが七%を超えた事などマイナスマaterialが重なり、一、九六九ドルと約一八〇ドル暴落での前半締めとなった。

後半はEU電話会合でECBドラギ総裁が欧州安定メカニズム(ESM)の資金引き上げに否定的だった事などのマイナス要因はあったものの、十一月の米新設住宅着工件数や耐久財受注、コンファレンスボード発表の消費者信頼感指数の結果を好感し、一月十一日現在、LME(現物後場)二、一三二ドルと一六〇ドル強下落のスタートとなった。

【前月の経済指標】

- ◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比七・三%減の八三万八、一三五台であった。
- ◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比一二%減の二二万一、九六〇台(前年比二三・五%増)。
- ◆三カ月間の自動車生産計画は昨年対比一六・七%増の二六二万四千台。

(面へ続く)

中国のアルミ製錬業者 第1四半期は減産予定なし

堅調な国内相場を背景に製錬業者ミ製錬業者筋など

中国の大手アルミ製錬業者の大半は、堅調な国内相場を背景に、二〇一二年第1四半期に減産する予定はない。製錬業者筋やアナリストが十二日、明らかにした。

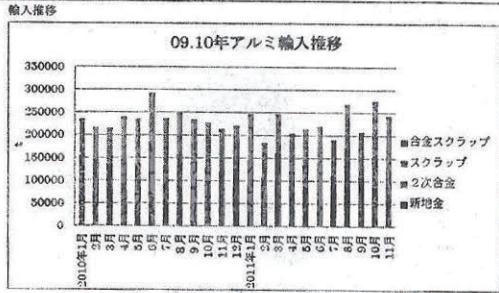
米アルコアやノルウエーのノルスク・ハイドロは最近、相場軟調を理由に減産計画を発表。中国の製錬業者もこれに続くのではとの観測が広がっていた。

アルコアらの減産計画を受けて、ロンドン金属取引所(LME)のアルミ価格は上昇しており、同日は昨年末比七%高の二トン二二、一六三ドルを付けた。昨年は年間で一八%下落した。

中国では昨年第4四半期、停電により、一部の製錬業者が生産縮小ないし操業停止を余儀なくされた。

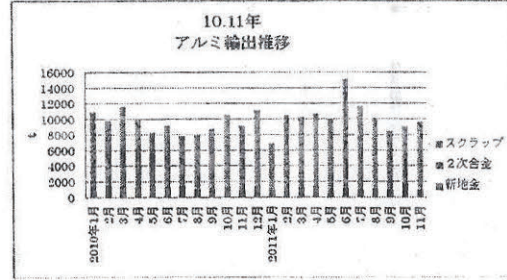
同筋は、大手製錬業者は既に生産を再開しており、その大半で稼働率は最大九七%に上っているなどと指摘した。

輸入	9月	10月	11月
新地金	10万7306t	16万3427t	12万474t
前月比	-37.6%	+43%	-21.5%
二次合金	9万5227t	11万6371t	11万6755t
前月比	+3.7%	+22.2%	+0.3%
スクラップ	661t	843t	658t
前月比	-50%	+27.5%	-33.8%
合金スクラップ	4687t	5710t	5711t
前月比	+4.6%	+22.4%	0%



出典 財務省 貿易統計

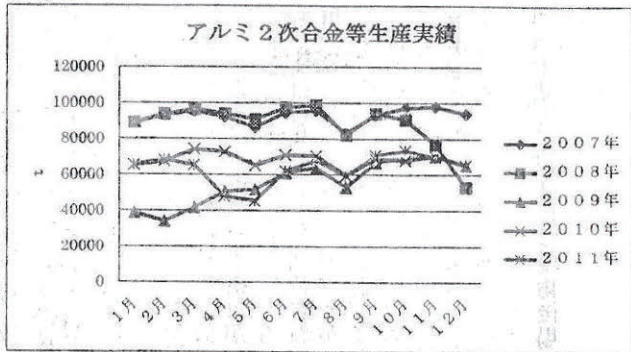
輸出	9月	10月	11月
新地金	50t	157t	167t
前月比	-70.2%	+214%	+6.4%
二次合金	866t	1624t	716t
前月比	-2%	+87.5%	-65.9%
スクラップ	7546t	7275t	8778t
前月比	-16.8%	-3.6%	+20.7%



出典 財務省貿易統計

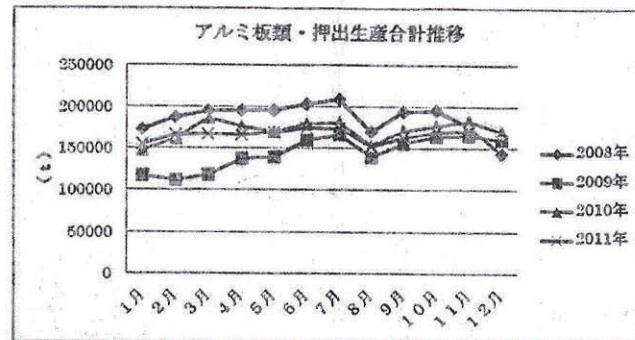
輸入は新地金が前月比二一・五%減の二万〇、四七四t、二次合金が〇・三%増の一、一五六、七五五t、スクラップが三三・八%減の五五八t、合金スクラップは〇%の五、七一一t。

(一画より続く)
◆新設住宅着工戸数
国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)九・一%増(昨年比〇・三%減)の七万二、六三五戸であった。
◆貿易関連指標
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比六・四%増の一六七t、二次合金が五五・九%減の七一六t、スクラップが二〇・七%増の八、七七八t。



出典 日本アルミニウム合金協会

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比五%減の六万九、七一一tであった(昨年対比〇・七%減)。(一画に続く)



出典 日本アルミニウム協会

【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比〇・六%増の一七万二、二六七t(昨年対比六・一%減)。

LMEアルミ相場は一段の上昇も

ロシア塊など輸入塊は底入れ

(二面より続く)
【見通し】

前月から調整、自動車関連も含め在庫調整が感じ取れる月となった。

自動車生産は八三万八、一三五台(前年比四・五%増)と四カ月連続で震災前水準より大幅増となった。

また国内自動車販売台数も二二万一、九六〇台で前年比約二四%増と、販売回復機運は堅調。

ただ、自動車関連のアルミ二次合金生産は前月比五%減の六万九、七一〇tだが、昨年対比では〇・七%減と供給不足が懸念される。

しかしその他、家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比〇・六%増の一七万一、二六七t。昨年対比六・一%減と二カ月連続前年割れ。

ただ新設住宅着工数は季節調整前月比九・一%増の七万二、六三五戸。前年比で〇・三%減と需要も回復、今後に期待がもたれる。

輸入塊は上海シグマが十二月末現在で二、三〇〇ドル(変わらず)、ロシア塊は二、〇五〇ドル(プラス七〇)と底入れしている。

輸入は新地金が前月比二二%減の一・二万〇、四七四t、自動車関連の二次合金は〇・三%増の一・一六、七五五t、合金スクラップは〇%の五、七一一t、スクラップは三三・



銅は引き続き上値重い展開か アル一段の上昇には買い材料不足

▽アルミ直物は七九・〇〇ドル高、三カ月物は八八・〇〇ドル高で越週した。昨年十二月の中国の銅輸入が堅調な伸びになったほか、スペインなど重債務国の国債入札がまずまずの結果となったことが好感された。週間ベースでは二週連続のプラスだが、欧州債務問題に対する懸念に圧迫される中、市場では一段高になるには買い材料が不足しているとの見方が出ている。

▽ニッケル直物は六五・五〇ドル高、三カ月物は七〇・〇〇ドル高で越週。週間では二週連続のプラス。

▽銅直物は四〇・六〇ドル高、三カ月物は四〇・五〇ドル高で越週し、三週ぶりのプラスとなった。欧州債務問題への懸念がひと

八%減の五五八tと、円高と自動車関連回復において調達が進んでいない。

輸出は新地金が前月比六・四%増の一六七t。二次合金が五六%減の七一六t、スクラップが二〇・七%増の八、七七八t。タイ洪水による自動車生産の不透明感も生産計画をみる限り国内においては順調で、急遽在庫を積み増したと考えている。

LME価格について、欧州債務問題に関しては一進一退が進み先行きは不透明。ただ当月内においてはFRBによる追加的金融緩和(QE3)期待や米経済指標の好調を前提とした新年度への需要期待から、一段高の二、〇〇〇、二〇〇ドルを予測。

アルミ原料需要・価格に関して新設住宅着工数は九・一%増(前月比)と低迷も底入れの兆し、また今月も、最大の需要家である自動車メーカーの自動車販売・計画共、約二〇%増と好調維持、心配されていたタイの洪水もさほど問題がないようであり、販売、計画の伸びに比べ前年比四・五%増と伸びが小さい生産は今後急増すると思われる。また自動車用途が多い二次合金生産も〇・七%減(前年比)と供給不足が考えられ、今後はこちらも生産が急増するとの予測から、アルミスクラップ価格については十二月後半価格から五〇〇円高を予測。

まず後退したのを受けて買い戻しが入ったものの、ユーロ圏諸国の格下げ観測を背景に十三日はリスク回避姿勢が強まった。

ファストマーケットのジョノ・レミントン・ホップス氏は「十三日の取引で、リスク回避の動きが再び強まったことが懸念材料だ」とした上で、「銅は依然として上値の重い展開が続く」との見通しを示した。

▽その他鉛の直物は三六・五〇ドル高、三カ月物は三八・〇〇ドル高で越週。亜鉛の直物は一〇八・五〇ドル高、三カ月物は一〇二・〇〇ドル高でそれぞれ越週した。

すずは直物が一、一〇二・五〇ドル高、三カ月物は一、一一二・五〇ドル高で越週。